

見過ごすな
幼い子どものSOS



大きな社会問題となっていて、児童虐待は、多久市内でも発生しています。このため市では、多くの方に児童虐待に関心を持っていただき、児童虐待の予防や防止、早期発見・早期対応に努めています。

市民一人ひとりが子どもを守るために、「おかしいな?」と思ったら、まず通報することが支援の始まりです。

全国的に子どもへの虐待に関する相談対応件数は、依然として増加傾向です。

最近の報道によると、保護者から心や身体を傷つけられることや、尊い命さえ奪われる痛ましい事件も伝えられ、児童虐待は社会全体で早急に解決すべき重要な課題となっています。

虐待の種類には、身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクト(育児放棄)などに分類され、身体的虐待とネグレクトがその大半を占めています。

程度の差はあれ、疑わしいものも含めると、多久市の身近な所でも児童虐待

待と思われるケースは発生しており、平成10年度以降、54世帯で70人が確認されています。

身体的虐待は、保護者がしつけの一部と思いついて行っていることもあり、虐待という意識がないことが多いようです。ネグレクトも家庭内のことでなかなか表面に出てくることなく、発見や事実確認が難しいのが現状です。

しかし、放っておくと虐待死や子どもが成長した後の不登校や非行なども大きな問題につながることもあります。

行動や身体的状況がおかしいと思われる子どもに気付いたり、虐待かどうかわからなくても「かもしれない?」「おかしい?」と思ったら、福祉健康課に相談や連絡をお願いします。

佐賀初公演です
入場無料!

あなたにもできるのです。
虐待予防支援が!

～聞こえていますか?
親と子どもの叫びが～

日時 11月18日(木)
開場13時 開演13時30分～16時
会場 佐賀市文化会館中ホール
講師 平原 義行さん



1部 講演
2部 劇団 生活舞台
『暗い部屋』
(脚本・演出は、講師)

『暗い部屋』の紹介
足が不自由になった父
親に母親の家出、子ども

達の非行と次々に襲いかかる悲惨な事実。働かない飲んだくれの父親が悪いのか、非行に走る子ども達が悪いのか。崩壊している虐待父子家庭からの悲痛な叫び、その叫びの裏にある悲しい現実。

■問い合わせ
NPO 法人 被害者支援ネットワーク佐賀
VOISS ☎33-2130

みんなの力が子どもたちを守ります

♥子どものサインを見逃していませんか?

- あざや傷が多い、不自然
- 乱暴な行動をする
- 体や衣服が汚れている
- 食事を与えられていない
- 極端に落ち着きがない、おびえている
- 虚言、万引き、家出など問題行動を繰り返している



♥ひとりでかかえこまないで!!

「育児がうまくいかない」「つい、手を出してしまう」など、ひとりで悩んでいる方も多いようです。子育てはこれまでの大人だけの生活パターンとは一変します。育児情報に振り回されたり、他の子どもと比べてしまうことも少なくありません。「自分だけ」「私だけ」と思わずに、まずは相談してください。

♥「おかしい?」と感じたら、電話を!

- 佐賀県中央児童相談所 ☎26-1212
- 多久市福祉健康課社会福祉係 ☎75-6118
- 小城警察署 ☎73-2281

※子どものことや支援に詳しい相談員が対応し、相談や連絡した方の情報は守られます。

※子どもや保護者への支援で、子どもの自立・家庭機能の回復を行います。



児童虐待防止推進月間の11月には、行政、民間団体、企業などがオレンジリボンキャンペーンを行っています。オレンジリボンは、児童虐待防止のシンボルで、虐待の現状を広く知らせ、子どもの虐待を防止し、虐待を受けた子どもが幸福になれるようにというメッセージが込められています。

私たち一人ひとりがこの問題の理解を深め、発生の予防や早期発見に努め、みんなの力で子どもたちを守りましょう。